



# 夢舞台に込めた思い ~南部九州インターハイ~

全国から高校生たちが鹿児島へ

7月27日(土)、「南部九州総体2019」が開幕した。鹿児島、熊本、宮崎、沖縄、和歌山の5県を会場に開催された「南部九州総体」は、高校生のスポーツの祭典、令和元年度の全国高等学校総合体育大会(通称…インターハイ)のことだ。

昭和57年の「鹿児島総体」以来、実に37年ぶりの鹿児島での開催となった今回、鹿児島市の鹿児島アリーナでは、総合開会式が行われ、鹿児島県選手団は美しいブルーのTシャツ姿で堂々と入場した。



全国の選手団を代表して、榮譽ある選手宣誓を行ったのは、川内高校男子バスケットボール部川畑颯太郎主将(3年)、れいめ

い高校女子バスケットボール部徳田梨愛主将(3年)。



「一人でも多くの方に元気と笑顔をお届けることができるよう、最後まで全力で競技します」

声高らかに行われた選手宣誓。2人とも自信に満ち溢れ、実に堂々としたものであった。

その後、高校生らが演劇や創作ダンスなどで開会式に華を添えた。

これから繰り広げられる30競技でどんなドラマが生まれるのか、選手たちの元気な笑顔からも期待がふくらむ。

インターハイにかける思い  
仲間と流した汗と涙が  
きつと君たちを強くする  
思いを胸に さあ戦おう!

高校生たちの激闘の記憶

元ライバルたちと一緒に  
目指したチームの勝利  
川内高校男子バスケット

サンアリーナせんたい、バスケットボール男子、「川内」対「北陸学院(石川)」試合開始のブザーが鳴る。チームカラーの赤色がスタンドを埋め尽くし、地響きのような大声援に「地元応援に応える勝利を」と選手たちは心を一つに挑んだ。

序盤は、互いに守備を固め、緊迫したゲームとなった。「点の取り合いではなく、じっくりと地に足を着けたプレイを」と主将の川畑颯太郎。ロースコアで守りながら、確実に得点するスタイルが川内の持ち味だ。



この日、スターティングメンバーだった川畑と野口侑真、山田響生は、中学時代にジュニアオールスターチームで出合い、ライバルとして対戦してきた。



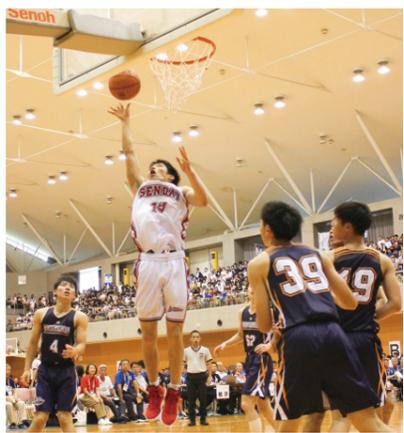
トボール部



チームのエース野口は、高校進学時に県外の強豪校からも誘いを受けたが、「中学時代のライバルであった選手たちと、川内高校で全国を目指したい」と川畑と山田に呼び掛け、同校へ進学。高校最後のインターハイで最高の結果を目指し、練習に励んできた。

新人戦時は、県で2位だったチームが、練習と筋力トレーニングを積み重ね、インターハイ出場をつかみ取った。

両チームとも得点が決まらないまま、先制点を決めたのはエース野口。会場のムードはさらに盛り上がる。北陸学院は前日の



試合で100点以上を挙げ勝利してきた強力な攻撃力を持つ。そのチームを準備でおさえ、前半は川内が6点リードで後半へ。しかし、後半から相手が守備を切り替え、3ポイントシュートを次々と決め始めた。果敢に攻めるが、相手の守備を崩せずに逆転を許し、点差は縮まらず、序盤は健闘したものの堅守に屈し、川内はそのまま敗北した。

インターハイに出場できたのは選手たちの力だけでなく、周囲の人たちの支えも大きい。バスケットボール中心の生活をいつも支えてくれた両親、練習相手や指導をしてくれた先輩たち、優しく時に厳しく導いてくれた監督やコーチ、そして、いつも身近で応援してくれた地元の方々、多くの人々の支えがあつて今、コートに立っている。

「小・中学生時代勝てなかった自分を、監督がここまで育ててくれた」「遠くまでいつも応援に来てくれた両親。感謝の気持ちをプレイで示したい」